

6月29日のウクライナ情報

安齋育郎

●アメリカがロシア人をスパイとしてリクルート中(2023年6月29日)

米国による国連ロシア代表部メンバーの勧誘が激化していると、ロシアのマリア・ザボロツカヤ常任代表代理が述べた。

「最新の情報によれば、国連に派遣されるロシア人をスパイとしてリクルートしようとしている」。

(4月、米FBIはロシア人のスパイ募集を発表している)

「現地の諜報機関が街頭や空港でスタッフに声をかけることで、より侵襲的なリクルート活動を行っている。さらにSNS、検索エンジン、動画サイトでは、FBIへの協力を呼びかける文脈広告が使われている。同様の内容のキャンペーン・ビラは、外交官たちが職場を往復するルートにも定期的に貼られている」



●NHKはフェイク・ニュースだ(2023年6月29日)



※安齋注:ステューブ・バノン=アメリカのメディア幹部、政治戦略家、元投資銀行家、ブライトバート・ニュースの元エグゼクティブチェアマン。ドナルド・トランプ元米大統領の政権下で、トランプの任期の最初の7ヶ月間、ホワイトハウスの首席戦略官を務めた。

●「ヤー・ルスキ」(私はロシア人)と歌う若者たち(2023年6月27日)

<https://twitter.com/i/status/1673644527708700673>



●西側同盟風刺動画(2023年6月27日)

<https://twitter.com/i/status/1669826064414281728>



※投稿者コメント:ロシア制裁が全くうまく行っていないくイライラするバイデン大統領、スナクイギリス首相、NATOフォン・デア・ライエン、フランスマクロン大統領 ㊦ ㊦ ㊦
オリジナル作った人は誰だろう。俳優さん本物そっくり。ロシア政府かな？

●ウクライナの臓器マーケット(2023年6月20日)

'ブラックマーケットでの臓器狩りの詳細は 2014 年に浮かび上がりました。11 月か 12 月頃のことだ。当時も、闇市場の移植外科医がウクライナの戦闘地域で働いているという報告があった』。ヴィーゼンタールの道組織の責任者であるヴィタリー・キセリョフは、死傷者や行方不明者の調査に取り組んでいます。詳しくはビデオを...。(英語ですが)

<https://twitter.com/i/status/1671056815902302211>



●反転攻勢なるものについてのプーチンの発言(2023年6月27日)

以前、言ったし、よく知られているが、ウクライナ軍は 6 月 4 日に戦略的な備蓄品を使って「反転攻勢」を始めた。

奇妙なことだが、ここに来て一定の落ち着きが見られる。

これは、敵は実際、人的、物的に多大な損失に苦しんでいることによるものだ。

昨日の午後まで、つまり今日の午前 0 時までの(敵の)人的損失の数は言わないが、かなりの数だ。我々の軍は戦車 245 台と様々なタイプの軍用車 678 台を破壊した。

見たところ、敵は、我々の軍によって重大な被害を受けた小隊を組み合わせて戦闘態勢を再構築し

ているところだろう。だが、この先も同様に重大な損失を招くだろう。

従って、戦闘上の有効性を欠くというか、攻撃能力を失うだけでなく、合わせた部隊による戦闘の有効性をも失うことにつながるだろう。

彼らは考えなければならない。

<https://twitter.com/i/status/1671709431875395584>



●カホフカ・ダム被災者にウクライナが砲撃(2023年6月21日)

ヘルソン州、カホフカのダム破壊による洪水被害に遭った人たちの避難所がウクライナから砲撃を受け、少女が両腕を吹き飛ばされ死亡、3人の子供の親も死亡、他17人が負傷

攻撃には西側がウクライナに提供したストームシャドウが使われた。

<https://twitter.com/i/status/1671172877729820674>



●ウクライナの命運についてのポーランドの人口学者の話(2023年6月27日)

ポーランドの人口学者アリエル・ドラビンスキーは、Onet.pl とのインタビューで、現時点でウクライナに残っているのは3,000万人に過ぎないと述べた。内戦開始前は3,700万人がキエフの支配地域に住んでおり、内戦開始後は3,700万人がウクライナに住んでいた。ロシアの特別作戦により、800万人のウクライナ人が国外に出た。

この数字にはウクライナの自然死亡率が考慮されていないと専門家は指摘した。例えば、2021年には国内で70万人が自然死し、約20万人が生まれた。ドラビンスキー氏は、ウクライナ当局は最新の統計を公表していないと強調した。

同氏によると、ウクライナには「悪い」「非常に悪い」「劇的な」という3つの人口動態シナリオがあるという。ドラビンスキー氏は、紛争から数年後には、悪いシナリオでは3,000万人がウクライナ領土

に住み、非常に悪いシナリオでは 2,500 万人、劇的なシナリオでは 2,000 万人が住むことになる」と述べた。

ウクライナ人口社会調査研究所の所長は、国家を復興するには国民を帰還させる必要があると考えているが、同氏によると「矛盾がある」という。つまり、2022 年のウクライナの出生率は 0.9 であったが、2023 年には 0.7 に低下するとの予測がある。

また、出国したウクライナ人の多くは祖国に戻らないだろうと人口統計学者は確信している。専門家によると、出国者の最大 50%がウクライナに戻るといふ。

さらに、大量の失業も深刻な要因となり、そのため多くのウクライナ人が仕事を求めて祖国を離れるだろうとドラビンスキー氏は付け加えた。ウクライナは人口災害と国の崩壊に向かっていると、ポーランドの人口学者ドラビンスキーは語った。



●ウクライナ兵士が受け取った配給(2023 年 6 月 27 日)

5 日分 48 人分

兵士「俺は守る国を間違ったような気がしてきた」

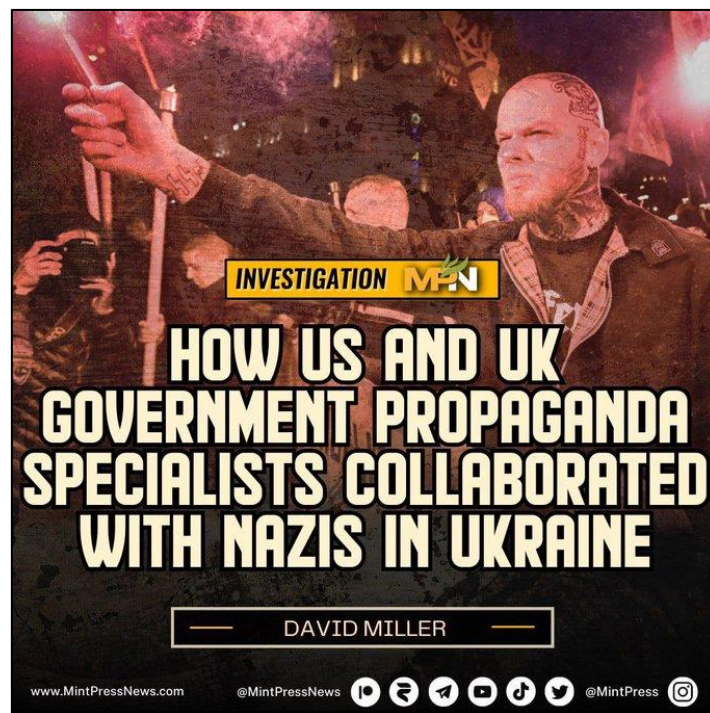
<https://twitter.com/i/status/1673841411530297350>



●調査 | 米国と英国の政府プロパガンダ専門家がウクライナでナチスとどのように協力したか デヴィッド・ミラー著(2023年6月27日)

MintPress の調査によると、少なくとも 2014 年以降、欧米の政府高官、諜報員、資産家の多くがナチスの団体や個人と密接な協力関係にあることが判明した。これには、先日ミントプレスが明らかにした、ウクライナにおけるナチスによる殺害リストの作成と運営への関与も含まれている。

欧米のメディアは遅まきながら、ウクライナにナチスの影響があることを認めざるを得なくなったが、多くのジャーナリストは、軍服に見えるファシストのワッペンがロシア人を荒らすためにあるだけで、取るに足らないものであり、ロシアのプロパガンダへの贈り物だと主張している。それでも他のジャーナリストは、ウクライナの軍人にナチスのシンボルを隠すように頼んだことを認めている。



手始めに、ロシア政府が ”特別軍事作戦 ” と呼ぶ作戦が 2022 年 2 月に開始されて以来、ウクライナのためにプロパガンダの役割を担ってきた、諜報機関とつながりのある重要な役人の継続的な役割から始めるのがいいかもしれない。1992 年に冬季オリンピックへの出場権を獲得したアイルランド初のボブスレーチームのメンバー、コーマック・スミスを紹介しよう。彼は、ウクライナにおけるロシアの役割について、西側のプロパガンダの論点を伝える数多くのニュースに登場している。しかし、スミスは誰のために働いているのだろうか？

彼自身の説明によれば、彼は ”ウクライナ／世界の自由 ” を支援する ”民間人 ” である。しかし、2018 年 12 月まで、彼は英国内閣府(首相をサポートする公的機関)の広報担当副部長だった。また、ウクライナ外相の戦略コミュニケーション・アドバイザーとして英国外務省に所属していたこともある。

昨年 5 月、『アイリッシュ・インディペンデント』紙は、スミスは「情報戦のありそうでなかったキーパーソン」であり、「キエフ側の言い分を伝えるために、ここ数カ月で国際メディアのテレビ、ラジオ、印刷物のインタビューに約 100 回応じた」と推定している」と主張した。スミスは、ロシア人こそ実際のナチスであり、子供の強姦を含む殺人、強姦、略奪を行っていると主張し、とんでもないプロパガンダを得

意としている。

結局のところ、レイプ疑惑の多く(子どもをレイプして殺したとされる複数の事例を含む)の情報源は、ウクライナ議会の人権委員リュドミラ・デニソワだった。彼女の証拠は、人権侵害の申し立てを報告するために設置されたヘルプラインとされていた。彼女の話はウクライナ政府にとっても酷なもので、2022年5月末に彼女は解任された。

昨年、彼女の話には証拠能力がほとんどないことが包括的に証明された。しかし、それ以前から彼女は「西側諸国に武器や援助をもっと送るよう説得するためにフェイクニュースを宣伝している」ことを認めていた。それにもかかわらず、スミスはその後も数カ月わたって(子供を含む)レイプの曖昧な主張を続けた。当然ながら、証拠が引き合いに出されることはなかった。彼は2022年4月から2023年1月までの間、ほぼ毎月レイプ疑惑を繰り返した。(2022年:5月、8月、9月、10月、11月、2023年:1月、4月、5月):1月、4月、5月)。

2022年4月、彼は「あらゆる年齢の200万人の女性」のレイプ疑惑に関するツイートを、こう締めくくった:「ロシア人はケダモノだ。他のロシアは存在しない。」

その3週間前、スミスはマリウポルのロシアの戦車乗組員と「ユダヤ人をガス室に入れたナチス親衛隊の殺人者」との間に違いはあるのかと質問した。

12月には、「ロシア人はナチスよりずっと悪い」という主張を披露した。

もちろん、スミスはマイダンがアメリカの支援を受けたクーデターであることも、NATOの拡大がロシアの介入を引き起こしたわけでもなく、ウクライナが軍や警察、諜報機関に組み込まれた「ナチスだらけ」でもないことも否定している。このように、彼はナチス弁明の最前線にいる。しかし、彼は誰のために働いているのだろうか?

彼自身の説明によれば、「モスクワが全面的な侵攻を脅し始めて以来、彼はウクライナの元同僚や友人と毎日のように連絡を取り合っている」。アイリッシュ・インディペンデント紙にこう語っている:12月(2021年)にウクライナを訪問したとき、あなたは私たちのことをよく理解しているから、コメンテーターとして協力してくれると助かると言われた。これは情報戦でもあり、私はささやかな貢献をしようとしている。ロシアは産業的な規模で嘘をつく国であり、私たちは何年もそのことを人々に知ってもらおうと努力してきたが、人々の目から鱗が落ちつつあるのは今になってからだ』。

不思議なことに、これはスミスがウクライナの俳優のために働いていることを示唆しているように見える。しかし、彼は何度か「プロボノ」、つまり無報酬でやっていると言っている。LinkedInのページによると、彼は2019年1月からさまざまな自営業のコンサルタント業を営んでいる。

ウクライナでの2年間である。彼はそこで何をしていたのか、誰のために働いていたのか。彼は英国政府のエージェントだったことが判明した。おそらく今もそうだろう。スミスは2016年4月に英国内閣府に入省した。彼は2020年に自身のリンクトイン・ページでこんな説明をしている:

内閣府での3ヵ月後、私はウクライナに行き、外務大臣の戦略的コミュニケーション・アドバイザーとして同国政府にコミュニケーションの専門知識を提供するよう依頼されました。私はキエフの英国大使館に所属し、ウクライナ外務省に配属された最初の外国人となりました」。

「1年半の間、私はキエフだけでなく、世界中に外務省のコミュニケーション方法に前向きな変化をもたらしたと評価された。また、厚生省、財務省、教育科学省、欧州統合担当副首相とも仕事をし、ウクライナ国家安全保障防衛会議とキエフのNATOミッションの両方に危機管理コミュニケーションに関する助言を行った。(後略)

●ここ数週間で成果出ない場合、ウクライナは全領土奪還に16年を要す(2023年6月28日)

ハーバード大学ダグラス・ディロン記念講座政治学教授のグレアム・アリソン氏はワシントンポスト紙に寄稿した中で、ウクライナが21世紀における西ドイツや韓国となることを望むのであれば、戦場での成功はここ数週間の間に収めねばならず、最悪の場合、長年にわたって領土を失うと警告を発した。

アリソン教授は、ウクライナ軍の攻勢は4週間目を迎えているものの、進軍はほとんど成就しておらず、ロシア軍は変わらず、以前のウクライナ領のおよそ17%を統制下に維持していると指摘している。ウクライナ側は進軍を続け、日に約120平方キロメートルの面積を奪還していると発表しているものの、このテンポでは全領土の奪還に16年かかるとアリソン氏は試算している。

だが、ウクライナを敗北の危機においやっているのは軍事的な要素だけではない。アリソン氏は、ウクライナ軍が夏の間「膠着状態」から抜け出せないのであれば、紛争の政治的な側面が事態の行方を左右すると予想している。すでに、欧米でウクライナを支持する者の多くはグローバル・サウスに加わりつつあるが、そのグローバル・サウスは、双方の紛争当事国に「真剣な停戦交渉」の開始を求めているからだ。

スプートニクは、ウクライナ軍の反転攻勢の不振の原因は航空機、兵器の不足にあるとする米国人専門家の見解を紹介している。



●スコット・リッターの見立て(2023年6月26日)

ウクライナが行わなければならないのは、彼らがNATOからの投資に値する、ロシアに対して持続的な軍事的脅威を与え続けるという認識を作り出すことです。

しかし、これまでの反攻撃の結果はまったく逆のものになっています。彼らが実証しているのは、NATOが何をしてもウクライナはロシアを打ち負かすことはできないという真実です。

さらに、ロシアは最終的には戦略的にウクライナを打ち破るでしょう。NATOの援助に関わらずです。そのため、ゼレンスキー大統領は、このような認識で

7月11日のNATOサミットに臨む余裕はありません。

そして今、NATOとロシアの関与がウクライナで行われており、世界が終わりの一步手前にいます。これはエスカレーションの愚かさです。

人々はこの愚かなことをやめる必要があります。

NATO は決してロシアに勝つことはできない。

アメリカもロシアに勝つことはない。アメリカにはヨーロッパでの大規模な地上戦闘でロシアに勝つだけの軍事能力はありません。それは事実です。

今日、アメリカが持っている全てをヨーロッパに配置しても、ロシアに負けます。私達はもはやそれほど優れていないからです。

今、アメリカの陸軍はロシアと戦うことができません。物理的にロシアと戦うことはできません。これは、昨年 1 月にスウェーデンの防衛フォーラムで行われた、ヨーロッパのアメリカ軍指揮官であるキャボリ将軍が行ったプレゼンテーションで述べられた事実です。

彼らは過去 20 年間、アフガニスタンでの国家建設、世界各地での低強度紛争、ヨーロッパでの限定的な軍事平和維持任務の準備に費やしてきた。NATO が準備してきた最後のことは、国境を越えて 12 万人の兵士を投入し、大規模な地上戦を実施することだ。NATO にはできないことだ。それなのにフォンデアライエンやストルテンベルグらは、あたかも NATO にその能力があるかのようなふりをし続けている。そうではない。

NATO は破綻している。訓練も能力も破綻している。

武器は全てウクライナに引き渡し、燃え尽きてしまった。新たな兵器を製造する能力もない。



●6・26プーチン演説全文(2023年6月26日)

親愛なる友人！

今日、私はロシアのすべての国民にもう一度、語りかけます。皆さんの自制心、結束力、愛国心に感謝します。この市民の連帯は、いかなる脅迫も、いかなる国内の混乱を演出しようとする試みも、失敗する運命にあることを示しています。

繰り返しますが、社会、行政・立法機関はあらゆるレベルで高い統合性を示しました。公共団体、宗教宗派、主要政党、そして実際にロシア社会全体が、憲法秩序を支持するという明確な立場をとり、断固とした姿勢を維持しました。祖国の運命に対する責任という一番重要な事が、すべての人を団結させ、国民をひとつにしたのです。

私は、出現した脅威を制圧し、憲法秩序と国民の生命と安全を守るために必要なすべての決断が、事件の発生直後から直ちに下されたことを強調したいと思います。

いかなる場合であっても、武装反乱は鎮圧されていたでしょう。反乱の陰謀者たちは、適切な判断能力を失っていたものの、これを理解していなかったはずはありません。彼らは、現在、巨大な外的脅威、前例のない外部からの圧力に直面しているこの国を分裂させ、弱体化させるために犯罪行為に手を染めたという事実を含め、すべてを理解していました。私たちの仲間が「一歩も退くな！」という言

葉とともに死んでいっている時に。

しかし、自国と自国民を裏切ったこの反乱の首謀者たちは、彼らがこの犯罪に巻き込んだ人々をも裏切りました。彼らは彼らに嘘をつき、死に迫いやり、攻撃にさらし、仲間を撃つことを強要しました。

ロシアの敵であるキエフのネオナチ、その西側の後援者、その他の国家反逆者たちが見たかったのは、まさにこの結末「兄弟殺し」でした。彼らはロシア兵が互いに殺し合い、軍人も民間人も死に、最終的にはロシアが敗北し、私たちの社会が血なまぐさい抗争の中で分裂し、滅びることを望んでいました。

彼らは手をもみ、前線やいわゆる「反転攻勢」での失敗のリベンジを夢見ていましたが、誤算でした。

反乱軍の前に立ちはだかり、自らの義務、宣誓、そして国民に忠実であり続けたすべての軍人、法執行官、特別部隊に感謝します。殉職した英雄的なパイロットたちの勇気と自己犠牲が、ロシアを悲惨な壊滅的結末から救ってくれました。

同時に、私たちは、ワグネルグループの戦闘員や司令官の圧倒的多数がロシアの愛国者であり、国民と国家に献身的なことを知っていましたし、今も知っています。彼らは戦場で勇気をもってそれを証明し、ドンバスとノヴォロシアを解放しました。そんな彼らを、この国と未来のために共に戦った戦友たちに対して、秘密裏に利用しようとする試みがありました。

そのため、事件の当初から、私の直接の指示により、多くの流血を避けるための措置が講じられました。また、とりわけ、過ちを犯した者たちに正気に戻る機会を与え、自分たちの行為が社会から強く拒絶されていること、そして、自分たちが関与した冒険がロシアにとって、我が国にとってどのような悲劇的で破滅的な結果をもたらすかを理解させるために時間を要しました。

唯一の正しい決断を下したワグネルグループの兵士と司令官たちに感謝します。彼らは兄弟殺しの流血には至らず、最後の一线で踏みとどまりました。

今日、あなたたちには、国防省やその他の安全保障機関と契約を結んでロシアでの任務を続ける機会、あるいは家族や友人の元に戻る機会があります。もし望むなら、ベラルーシに行くこともできます。私が交わした約束は必ず守ります。繰り返しますが、選択はあなたたち次第ですが、悲劇的な過ちに気づいたロシア兵士の選択であると、私は固く信じています。

私は、ベラルーシのアレクサンドル・グリゴリエヴィチ・ルカシェンコ大統領の努力と状況の平和的解決への貢献に感謝します。

しかし繰り返しますが、この数日間で決定的な役割を果たしたのは国民の愛国心であり、ロシア社会全体の結束でした。この支援のおかげで、私たちは祖国にとって最も困難な試練を共に乗り越えることができたのです。

このことに感謝します。ありがとう。

<https://youtu.be/nTLjn3zgDcw>



●2016年のリンゼー・グラムとジョン・マケインのウクライナでの反プーチン・アジ演説(再送、2022年5月6日)

<https://twitter.com/i/status/1522491312532242432>

